

デイリー・ジーザス・ニュース #210

イエスの宣教

イエスの失われた長男のたとえ話

ルカ15:25-32

25 「その間、兄は畑で働いていました。家の近くに来ると、音楽と踊りの音が聞こえてきました。26 そこで彼は召使いの一人を呼び、何が起きているのか尋ねました。

27彼は答えた。「あなたの弟が帰って来ました。あなたの父上は弟が無事に帰ってきたので、肥えた子牛を屠ったのです。」

28 「兄は怒って、家に入ることを頑なに拒否しました。そこで父親が外に出て、兄に懇願しました。29 しかし彼は父に答えた。

」『見てください！私は長年あなたに仕え、あなたの命令に一度も背いたことはありません。なのに、友と祝うために子ヤギ一匹さえくれなかったのです。30 ところが、売春婦と財産を浪費したあなたの息子が家に帰ってくると、あなたは彼のために肥えた子牛を屠るのです！』

31 「息子よ」と父親は言った。「お前はいつも私と一緒にいる。そして私の持っているものはすべてお前のものだ。」32 しかし、私たちは祝って喜ばなければなりませんでした。あなたのこの兄弟は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのですから。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ペレアのどこか
タイムライン	1月または2月（36ヶ月目と37ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	A.ペレア全土におけるイエスの奉仕者たち
タイトル	9. イエスの失われた兄のたとえ話

コメント：

イエスの三番目のたとえ話は、弟のたとえ話であるかのように「放蕩息子」と呼ばれることが多い。しかし実際には、イエスは兄のたとえ話を強調するためにこのたとえ話をされた。イエスは、この三つのたとえ話

デイリー・ジーザス・ニュース #210

を通して、たとえ話の中で兄として象徴されているパリサイ人の誤った態度を正し、それを正すためにこの三つのたとえ話をされたのである。

イエスがこれらのたとえ話を語ったのは、パリサイ人が、イエスが弟のような「罪深い者」を迎え入れると不満を漏らしたからです。三つのたとえ話はすべて、悔い改めた罪深い者を「見つけ」、再び結びつく際に、神（と天使たち）が喜びと祝福を捧げる必要性を描いています。この三つのたとえ話の父親は、神が深く愛する罪深い息子や娘たちを家に迎え入れるという、神の喜びに満ちた態度の究極の表現でした。

兄は、神とは正反対のパリサイ人の態度を体現していました。放蕩息子は盛大な宴会にふさわしいのに、そうではないことに兄は腹を立てました。全く不公平でした。放蕩息子は長年、父親のために家で働き、外見は従順そうに見えても、内心は怒りと不満で煮えくり返っていました。それなのに、何も見返りを得ていないように見えたのです。

弟は、父の優しさのおかげで、家で雇われている人たちでさえ、父と離れて暮らすよりもずっと良い暮らしをしていることに気づきました。一方、兄は、父と家で暮らす生活は、父の奴隷として暮らすよりも悪いと考えました。

父親は兄との絶え間ない交わりを大切にしていました。「息子よ、お前はいつも私と共にいる。」父親は自分の財産を兄が使えるように惜しみなく与え、喜んでいました。「私の持っているものはすべてお前のものだ。」しかし、兄にとってこれは何の意味も持ちませんでした。なぜなら、彼は家庭では外面的には従順な生活を送っていたものの、父との愛の関係においては死んでいたからです。

兄は家にいる間も父から隔絶され、死んだも同然でした。弟も遺産を無駄にするために遠くへ出かけていった時も、父とはまるで別人でした。二人とも心の中では同じように父から離れていましたが、ただその隔絶感を表現する方法が異なっていたのです。弟は正気に戻り、父がいかに善良で愛情深い人であったかを悟りました。兄はまだ正気に戻っていませんでした。父のことを全く知らなかったからです。兄は真に父から離れ、父にとって冷たい墓石のように死んだも同然でした。

イエスは、これら三つのたとえ話を語ることでパリサイ人たちに衝撃を与えました。それは、神に忠実に従い仕えているという見せかけのもとに、彼らが神から遠ざかり、迷っていることに気づかせるためでした。イエスはまた、もし彼らが弟のように正気に戻り、悔い改めるならば、神の愛と温かい歓迎を彼らに与えると約束したのです。

兄と同じように、パリサイ人たちはあまりにも独善的で、そうする必要性を全く理解していませんでした。そして、真の交わりに迎え入れてくださる神の喜びに全く関わりたくありませんでした。彼らはどんな犠牲を払ってでも、神から心の距離を保ち続けました。

放蕩息子の迷える状態は容易に見分けられます。兄たちは、神から疎外された状態をはるかに巧妙に、巧みに隠します。彼らは通常、信仰深く、自分の正義を保つためにあらゆる正しい行いをするに誇りを持っています。しかし残念ながら、彼らは他の放蕩息子と同じように罪の中に迷い込み、その誇りゆえに神に対して死んでいます。唯一の違いは、彼らがまだ神から疎外されていることに気づいていないということです。

デイリー・ジーザス・ニュース #210

す。したがって、彼らの状態は、自分の罪深さを認識し、それをありのままに認めている放蕩息子よりもはるかに悪いのです。

応用：

神から疎外される「兄」タイプのほうが、「弟」タイプのもので一般的です。

あなたは神から距離を置く際に、「兄」タイプでしょうか、「弟」タイプでしょうか？それは、あなたが付き合っている人を見ればよく分かります。彼らは「弟」タイプでしょうか、「兄」タイプでしょうか？

神に対するあなた自身の罪深い行動に最もふさわしい悔い改めの形は何でしょうか。どのように悔い改めを表わすことで神と共に喜びを感じているのでしょうか。